平成２８年度第２回「柏崎市男女共同参画審議会」議事録(概要)

日　　時　　平成２９年２月９日（木）１５：００～１７：１５
会　　場　　柏崎市役所４階　小会議室
出席委員　　阿部委員、新野委員、梅比良委員、岡田委員、新澤(久)委員、西巻委員、
　　根本委員、松原委員、山本委員、吉田委員　　１０人
　　（欠席：栗原委員、新澤(守)委員、須田委員　３人）
事 務 局　　人権啓発･男女共同参画室
　　市民生活部長 池田、室長 力石、係長 阿部
概　　要

男女共同参画を取り巻く社会の動向や市が今年度策定した第五次総合計画の将来都市像と基本理念、男女共同参画に係る記載内容の説明及び来年度に行う平成 28 年度からの男女共同参画基本計画に沿った推進状況の評価方法について協議検討を行った。

１　開　　会
２　会長あいさつ
３　議　　事
(1)　男女共同参画を取り巻く社会の動向
（事務局から資料№1「内閣府：男女共同参画局発行平成 28 年版データ」「男女共同参画を取り巻く社会の動向」当日資料「第五次総合計画　将来都市像と基本理念」について説明）

(2)　柏崎市男女共同参画基本計画推進状況の調査・評価方法について
（事務局から資料№2「男女共同参画基本計画推進状況の評価方法について」、№2-1「かしわざき男女共同参画プラン推進状況報告書（新様式案)」について説明）

議長　　資料 2-1 は、来年度の評価のためのシミュレーションとして捉えていただきたい。

事務局　　これまでの評価方法の問題点は、資料 2 に示した。まず、事業数が多く、重点項目ごとに同じ事業が何回も出てくる。男女共同参画の視点になっていないものがある。事業に対する全体のニーズが分からない。担当課の自己評価の基準が分かりにくい、などである。

議長　　実施区分「拡充」「継続」「縮小」「新規」のいずれかの表示が加えられた。

事務局　　他市では予算額を載せているところがあるが､予算に出てこない事業もあるし、全額がその事業のためというわけではない。柏崎市は、一次評価しか行っていない。人権啓発・男女共同参画室での二次評価、審議会での三次評価が必要かと思われる。そこで、担当課の意見や回答が入ってくれば、審議会と担当課とのキャッチボールができる。以前は、評価に加え、審議会から提言書を提出した。

議長　　今回は、計画策定があったので提言書は出さなくてもいいのか。

市民生活部長　2年の任期の終わりに提出するというよりも、次の計画を作るにあたっての「提言書」である。

新しい計画のための報告書は、事業を絞った。評価の方法は、各課の自己評価を元にして、9 つの重点目標ごとに、当室で二次評価をまとめれば、審議の段階でも、計画が進んでいるのか、ここは弱いのではないかという部分が分かりやすくなる。三次評価として審議会の皆さんから意見をもらい、その結果を担当課に返してやりとりをして、翌年度の事業の進捗を図ってもらうのが分かりやすいのでは。また、計画の進捗が大枠で捉えてもらえるのではないか。

議長　二次評価と三次評価、あとは予算、事業区分、表の見やすさなどについて意見をいただきたい。担当の室として二次評価をしたものがあればわかりやすい。

Ａ委員　実施状況が補足資料としてあると、過去からの推移が分かり、提言をする側としても分かりやすくなる。また、二次評価を作るに当たって担当課からヒアリング等を行ってもらい、審議会で三次評価をして、その審議会の意見を担当課につないでもらうことで認識が深まる。文字だけでつながるよりも、やりがいが生まれ、担当課にもやりがいを感じてもらい、リアルに市民の声が聞こえて、男女共同参画の視点がお互いに認識し合える。

議長　今のままでは、廃止となった場合は表に出てこないのか。

Ａ委員　経年で見れば廃止になったものが分かる。

市民生活部長　単独の一つの予算がつく事業というよりは大きくまとめた括りになっているので、その括りの事業がなくなるということはない。主な事業の括りは残り、細かい事業が切られることはある。

Ａ委員　初めての審議会委員がこれを見た時に、過去が少しでも読めれば回答しやすくなる。また、初めての委員や市民向けに用語解説があればいいと思う。

事務局　柏崎市の審議会の中で女性委員の比率など、データを出していければいい。

Ｂ委員　柏崎市は「効果があった」「効果がなかった」となっており、評価の仕方としてはいいが、実際の担当課の評価は、事業を実施したか実施しなかったかの区分で書いているように見受けられる。せっかく評価をするのであれば、この事業がどんな効果があったのかなかったのか、ここを変えればこんな効果が見込めるというところに反映できるといい。

市民生活部長　評価の根拠を担当課に書いてもらえば効果がどうだったかということがわかる。

事務局　二次評価をするとしたら、担当課の評価の理由を書く欄を設けることなども考えられる。

Ｃ委員　次年度に前年度の評価することから、この表に実績だけでなく、前年度の事業計画を掲載してほしい。評価をする時に「実績」だけでは、その計画が何だったのか分からない。実施事業の取組内容が指針みたいなものなので、それより詳しい事業計画を書いてもらわないと視点が入っていかない。例えば、5 ページを見ると事業計画を実施予定回数まで具体的に示しているところと「継続して何かを

やる」というような取組内容を具体化していないところとでは、差が出てきている。横並びにすると担当課の意識の有りようが分かる。一年終わってチェック機能を出せるところと、他課と比べて自分の課は取組内容のままだというところの意識が持てればいい。

事務局　今は、元の計画書の内容を押さえてもらうために方向性の内容を忠実に落とし込んでいる。項目を増やすと、さらに表が横に長くなる。他市の様式も様々だが、報告書の記載だけでなく、ほかの方法でも関係課に対して男女共同参画という視点を持って事業を行ってもらえるよう意識づけに取り組んでいると思われる。今の様式は施策の方向性を基本に、それに対して何を実施していくか、実施する際には「重点項目に対して男女共同参画の視点で配慮した評価・課題」を意識してもらうことに着目している。

また、担当課が主体となって事業を行えるところと、保育園のように現場で事業を実施する主体がたくさんあるところでは、何を何回やるかなどが一律に示せない場合もある。

Ｄ委員　平成 28 年度の事業計画が抽象的であり、事業計画が取組内容と被っているところが多いので、実績に対して次年度どうやろうかという形が具体的なものになっていると評価がしやすい。

Ｅ委員　基本計画の目標から取組内容、事業実績が横並びで示してあるのでかなり見やすくなった。また、「重点目標に対して男女共同参画の視点で配慮した内容又は評価・課題」では、評価であれば、この部分にＡ、Ｂ・・の根拠が入るといい。一方通行ではなくお互いに理解しながら歩み寄っていくという姿勢が大事である。本当に男女共同参画に力を入れるのならば、人材を登用しなければならない。

Ｆ委員　仕事の中で、プランを立て実践し反省して、反省を次のことに生かさなければ進んでいかないが、男女共同参画の進捗は目に見えるものではないので、評価が難しい。また、多くの事業は本来の目的があり、数が多い少ないの問題でもない。大事なのは男女共同参画の視点で配慮したこととその課題である。課題があれば次の年度にどういうことに配慮して事業を行うかが見えてくる。また、他課とも比較し、参考にしながら、意識をして改善していった取組が見えるといい。

Ｇ委員　評価をする時はいつも“評価のための評価”にならないようにといわれている。基本計画の指標の数値が妥当なのかというところには戻れないわけだから、男女共同参画の視点でこういうことをやると、この数値に近づくということをまず担当課が決め、それに対してそれぞれ事業を行って、Ａと評価した効果、Ｃとしたら、足りない点を次の年はこのようにします、という評価をする。その内容を審議会でそれぞれの立場で評価したものが担当の室を通して担当課に戻っていく形がいい。また、登用率などは数値で見ることができるが、意識を変えるということに関しては市民意識調査でしか見ることができない。市民意識調査は一回だけなのか。目に見えず実感することができないものを評価をするのでひっかかる。

事務局　　5年に1回、概ね計画年度の終わる2年手前で市民意識調査をする。

G委員　　そうすると、やったかやらないかの事業評価の形になってしまう傾向がある。

H委員　　事業を実施しなかったというD評価はなく、様々な事業を計画し、実行し、また継続してやっていくこと自体が大変なこととと資料を見て思う。男女共同参画の推進に向けた取組をよくやってもらっていると思う。参加者がどういう意識を持ったのかを評価することは難しい。少しでも多くの方が参加して意識してくれれば、着実に何かを気づかせるチャンスになっている。私自身、普段から性別や肩書、年齢に関わりなく仕事をしている。この会議に参加したことで学んだことを職場に返って役立たせたい。

議長　　一次評価である担当課の自己評価、担当室の二次評価を踏まえての審議会の三次評価を行うこととする意見でまとめることとしたい。

事務局　　個々に事業を評価する際に、男女共同参画の視点で記載してほしいとの説明があっても所管課の事業中心の視点での回答となっているものもある。いかに、計画の目標を捉えやすく男女共同参画の視点を入れやすい方法にするか、努力しなければならない。先ほど、次年度以降の取組で配慮する点を示した方がいいという意見もいただいた。今のように次年度に予定する計画までの記載はなくても課題を克服していくために配慮する点などを盛り込んだ方がいいのか、一枚の表とするのが難しいのであれば、評価する資料として、予定する計画の表、事績だけを示した表、経年で事業を総合的に評価した表など、目的別に作成したほうがいいのか、ほかの自治体も悩みながら評価を行っている。当市では、評価作業をは6 月に行っていることから、既に次年度が始まっているので、年度末に審議会を行うタイミングで実績を見込みで出すなど行えば課題を次年度につなげられる。

市民生活部長　そうすると評価を2回やらなければならない、実務的には無理がある。29 年度になった時に平成 28 年度の実績を評価して、二次評価に対して審議会が三次評価をして担当課に返すのならば、平成 30 年度にどう生かすかということになる。

F委員　　今の反省が再来年の事業に生きるのであれば、私たちも考え方を変えなければならない。

B委員　　前にも言ったが、プランは5年計画なので、私たちが評価をしたものは5年後のプランにしか生かせない。また、報告書にある自己評価は、本来もっとB、Cが出るべきだ。Aが多いということはこれ以上意識が高まる余地がない。効果がないから次はもっと改善しようという発想になる。

A委員　　現社会の動きは速い。意識をどうやって変えていこうかというのが審議会の役割ではないか。

D委員　　次年度にこういう考えを持って計画を立てますというところを評価できればいい。

E委員　　他市の資料に市政情報モニターというものがあるが、柏崎市ではどうなのか。

市民生活部長　以前はやっていた。今は「市長への手紙」などで市民の方からたくさん情報を

もらう機会が増えている。

事務局　　報告書の表の組み方だが、評価する事業は、同じ事業名が何度も掲載されないようにしたが、再掲されるものはある。また、規模の大きい課は取組内容ごとに分けるほうがよいと思われるがどうか。

Ａ委員　　課によっては、個別に評価ができるところがあれば、それぞれ実施し、欄をもう一覧設けて、課全体の総合評価を示す方法を取ると審議会側では自己評価を読み込みやすいのではないか。また、本来、ＢやＣが出てくることの方が妥当なのではないか。配慮した内容や課題を見ると、Ａと評価したことに対し疑問がある場合がある。これは、自己評価する側のＡをつける認識と、そのＡを私たちが見るときの心理とにギャップがあるのではないか。そのあたりが男女共同参画に対する認識を変えるいいヒントにつながるのではないか。個別に欄を設けながら、自己評価をする人たちが、自分を高めることができる表になっていくといい。

事務局　　事業ナンバーはそのままにして、中で細分化しながら評価をもらっていった方がいい。総合評価は係単位ではあまり考慮されないことが考えられる。

Ｈ委員　　参加人数や数値など具体的なことを出してもらった方が分かりやすい。

事務局　　どの計画でも計画の評価は、数字で出せるものは出す流れになっているが、単純な参加者数とＤＶ相談や支援などの場合とでは、数字の意味合いが違っても一律ＡやＢで示すことになるので、疑問な点がでてくると思われる。いただいた意見を参考にして、男女共同参画の視点で各課の評価内容を伝えられるようにしたい。

４　その他

・次年度の会議日程等

事務局　　来年度６月の第１回審議会で、今回の意見が生かされたものをお示しする。

５　閉会あいさつ

副会長　　これまでの審議会での委員の意見を取りまとめた資料２は内容が濃く、審議を重ね、この結果、新しい改善につながり、新しい計画に沿った報告書の評価に生かされることはうれしく思う。２ 年の任期が終わるが、いい出会いがあったと感じている。

６　事務局あいさつ

市民生活部長　具体的な意見をいただき、事務局として評価方法をはっきりさせることができた。２年の委員の任期が終わるが、この会議での関わりをもとに引き続き支援をいただきたい。